

富士山麓資源の変遷と文化形成について 蛇口 湧己〔東京農業大学〕

富士山が世界文化遺産に登録されたことは記憶に新しいが、危機遺産への降格の可能性が高いことを知る人は少ない。もとは世界遺産として登録したかった「富士山」だが、登山道に遺棄されたゴミ等からそれは叶わなかった。富士山においては火山活動が山麓資源に大きな影響を与えていると考えられる。火山活動の後に大きな変化が見られる場合は、物理的に道が変わった、その文化の長所が消えたことなどがあげられる。間接的な要因としては、火山活動によって、新しく魅力的な文化が近くに形成されたことも考えられる。火山活動と関係なく変化が現れている場合は、人々の関心が変わっていると考えられる。山岳信仰として正しい登拝道が変化したことや、町の作りが変わり、富士山に至るまでの道が変化していることが考えられる。上記の調査としては①主に火山の活動②富士山を中心とした文化(茶屋・神社等)の変遷を探っていく。予想される結果は富士山の変化が「山麓の文化に影響を与えている」とことと「時間的な誤差を伴う物があること」等である。本論文では富士山における文化・信仰の起こりを捉え、その変遷を再定義することで、富士山に文化が存在することを明らかにすることを目的とする。

富士吉田口登山道における五合目以下の景観の印象に関する研究 片桐達斗〔東京農業大学〕

草山・木山は利用者が多い五合目以上の焼山に比べ、自然度が高く、標高が低いことから、比較的歩きやすい。また、富士信仰の歴史を記す多くの施設や文化財が残されていることから富士山の文化・歴史を巡る場として適している。そこで、本研究では自然度が高いことと、歴史を記す資源が多く残されていることに着目し、利用者が感じる景観の印象について明らかにした。調査方法は、写真投影法・アンケート調査、聞き取り調査を実施した。北口本宮富士浅間神社から吉田口登山道五合目以下を散策し、自らの主観で気になった写真を被験者が撮影した。撮影した写真を元に被験者が鑑賞意思、好ましさ、期待感、疲労度、満足度を評価した。聞き取り調査では、撮影した写真を元に、文字では表せなかった感情などをヒアリングした。それらから得た景観に関するワードをラベル分けし、分析した。その結果、歴史的資源よりも自然的資源の方が登山客らは印象が強いことが明らかになった。資源の維持管理状況や被験者の富士登山に対する知識などが登山客の印象に影響していた。